日本基督教団 新横浜教会 月報

鶏（けいめい）鳴

2010年6月13日（第37号）

イエスの言葉

『あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』

聖書（ヨハネ福音書１３章３４節）

牧師　河合裕志

明日は十字架につけられる前の晩のこと、イエスは最後の晩餐をとった。その席上イエスは最後の言葉を述べ別れの言葉とする。

その一つがこの「新しい掟」と言われるもの。「互いに愛し合いなさい」、これが別れに臨んでのイエスの切なる思いだった。

しかしこれがどうして新しい掟なのか。それってずいぶん古い掟ではないの？　はるか旧約聖書のレビ記１９章に「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」と言われている。素晴らしい掟。イエスはこれを「あなたの神である主を愛しなさい」という掟と共に「この二つにまさる掟は他にない」と人に教えた。隣人愛、それはイエスやキリスト教の専売特許なんかじゃない。イエスが力説強調したことは確かだけれどすでにとうの昔にあった教え。

「隣人を愛しなさい」と「互いに愛し合いなさい」とどこが違う？　そんなに違わない。だから「愛し合いなさい」がどう考えても新しい掟とは呼べない。イエスの真意はどこにある？　どこが新しい？

これは次にあるのでは？　「わたしがあなたがたを愛したように」にある。この「ように」は「基づいて」ということ。わたしイエスがあなたがたを愛した、その愛に基づいて愛し合え、ということ。ここにユニークさがある。こういう愛の順序はこれまでなかったのでは？

イエスの方から先ず愛した、ということ。自分の命を投げ出す程に人間を愛したこと。人の罪がゆるされ、永遠の命をもたらすために十字架の上に犠牲となったこと。このイエスの自己犠牲的な愛を覚え、それに促されて、あんた方も愛に一歩でも半歩でも進みなさいよ、ということ。自分に与えられている金品や時間や知恵能力を人様のために少しでも献げて行きなさいよ、ということ。

人はなかなか人を愛する方向に進むことが難しい。誰も自分が一番大事。他人のために与える、一肌脱ぐなんてとんでもないこと。この固い殻に突破口を開けるのは十字架の愛。先ず「わたしがあなたがたを愛した」その愛を深く心に刻む時、私の心はいくらか柔らかにされ、自己愛から少し解かれ、隣人が視野に入って来、一歩愛に進む者とされるのではないか。これって甘っちょろいかな。しかし十字架は甘くない。あそこで死んだ方を覚えたい。

集会案内

主日礼拝　：毎日曜日午前１０時１５分
主日夕拝　：毎日曜日午後　６時
子どもの教会：毎日曜日午前　９時
中高校生会　：毎日曜日礼拝後
おしゃべり会：毎木曜日午前１０時
聖書を学ぶ集い：第４水曜日午前１０時